

MNCA

森ノ宮医療学園校友会会報

2000年10月号

初夏号(2000.10発行) 森ノ宮医療学園校友会会報〒537-0022
編集発行責任者 大阪市東成区中本4-1-8 TEL (06) 6976-6889
浜田 暁 URL http://www.osaka-am.ac.jp



全日本鍼灸学会 開催される

第49回全日本鍼灸学会学術大会が6月9日(金)から11日(日)にかけて、神戸市のポートアイランドにある神戸国際会議場にて行われ、本校の卒業生では、3期昼間部の井上悦子先生(本校教員)、3期夜間部の尾崎朋文先生(本校教員)、21期夜間部の鈴木信先生、21期夜間部の湯谷達先生(本校鍼灸室鍼灸師)、23期昼間部の鹿毛則子先生、23期夜間部の小島賢久先生(本校教員)が発表されました。

また本校講師の鈴木紘先生が実技セッションにて「小児鍼治療」の実演を行われ、その進行を同じく本校講師であり、1期夜間部の奥田功先生が務めました。

各発表の概要

(詳細については全日本鍼灸学会雑誌第50巻2号、第49回(社)全日本鍼灸学会学術大会抄録集をご参照ください。)

1 井上悦子 3期昼間部 吐き気・嘔吐の必要治療数(NNT)

1997年NIIH(米国国立衛生研究所)パネルの鍼灸明で、鍼は成人の術後や化学療法時の吐き気・嘔吐、および歯科の術後痛に有効であるという有望な結果が得られている。そこでNIIHパネルが検討した吐き気・嘔吐に関するCCT(臨床比較試験)論文45件中、全日本鍼灸学会研究部適応症委員会が入手できた15件について、各文献の結果から個々のNNT(必要治療数)を計算してそれらの有効性の程度を検証した。その結果、NNTは2.1と各文献によつてばらつきはあるものの、婦人科・産科の術後痛の化学療法後の吐き気・嘔吐予防に対して、鍼・指圧を用いる価値があると推測された。



2 尾崎朋文 3期夜間部 一嚥穴刺激の安全性についての検討

外後頭隆起と肩峰の中間に位置する一嚥穴は、名称としてはあまり知られていないが、臨床において使用頻度の高い経穴である。しかし深部に肺尖が存在し気胸の可能性も考えられる経穴であることから、遺体解剖と生体の臨床所見およびX線像により安全性を検討した。遺体で刺入した鍼は、僧帽筋前縁・肩甲筋・頭板筋・多裂筋を貫通後、第7頸椎椎弓に位置する。したがって一嚥穴の前面上での体表に対する垂直刺激は、外傷性気胸を起こす可能性はない。刺入方向が腹側になった場合には、肺に到達する可能性は大きくないものの、その浅層に腕神経叢が存在することから、肺に到達する前に腕神経叢に当たり放散痛を感じるようになり、それ以上深刺しなければ気胸の可能性はないといえる。

3 鈴木 信 21期夜間部 鍼治療の安全性に関する研究(4)

一刺鍼による出血の経過について(その3)

過去2回の学会において鍼治療の臨床現場で不慮に起こった出血の経路は生体に有害でないことを確認してきたが、今回は出血傾向の可能性が考えられる疾患を有する患者について刺鍼による出血を観察した。

その結果、不慮に形成された出血斑の完全消失までに要した日数は我々の過去の報告とはほぼ同様であり、出血傾向の可能性があっても安全に治療する事実が確認された。ただ慢性肝疾患やワーファリン投与例においては、血管斑がやや拡大する傾向がみられたことから、出血傾向の可能性のある患者に対してはインフォームド・コンセントの必要があるのではないかと考えられた。

4 湯谷 達 21期夜間部 筋硬結の検討

筋硬結形成のメカニズムについての考察

過去2回の学会において筋硬結の画像所見、組織所見の検討を行い、筋硬結には好発部位が存在し、同部位の筋組織に筋膜肥厚や脂肪化が存在している可能性を報告してきたが、今回は病理解剖例18例を対象に筋硬結形成のメカニズムについて考察を試みるため筋硬結好発部位(第3腰椎高位)の脊柱起立筋組織を検討した。

その結果、鍼灸臨床で実際に触れる筋硬結には主に脂肪化と線維化のタイプが存在する可能性があること、筋硬結形成のメカニズムに、筋膜(特に筋内膜)の肥厚が一因になっている可能性があることが考えられた。



5 鹿毛則子 23期昼間部 鍼灸臨床の実態分析(1)

患者調査を中心に

鍼灸院を受診する患者のニーズを明らかにするために、米山鍼灸院に来院した成人患者481人を対象に調査を行った。

その結果、主訴の64.4%が肩こり・腰痛で占められ、58.2%が「痛み」を訴えていたことから、肩こり・腰痛および「痛み」の軽減が受療者のニーズに応える大きな役割と考えられた。また来院患者の80%以上が他の医療機関を併用し、中には特定の疾患名を主訴とする場合もあることから、鍼灸院にとって現代医学的知識は不可欠であると考えられた。それと同時に通院患者の鍼灸治療への期待が感じられた。逆に他の医療機関を併用していない患者に対してはプライマリ・ケアの役割の可能性が示唆された。

6 小島賢久 23期夜間部 実験的圧痛点に対する鍼刺激の影響

鍼灸臨床で、治療点としてよく用いられる圧痛点に対し、その治療メカニズムを解明する目的で作成した上腕二頭筋の実験的圧痛点(片側)に鍼刺激を行い、同部位の組織血液量および酸素代謝量の変動を検討した結果、鍼刺激によつて両側で皮膚血流量が増加傾向を示した。また深部組織において非圧痛点形成側では皮膚血流量同様の血管拡張が誘発されたが、圧痛点形成側では血管拡張が起らずに酸素代謝が抑制された。以上から、圧痛点への鍼刺激が組織血液量および酸素代謝に対して何らかの影響を与えていることが示唆された。

なお、本校の竹中浩司先生(23期昼間部)・小島賢久先生(23期夜間部)による第49回全日本鍼灸学会学術大会の印象記が「医道の日本8月号」に掲載されています。

2000年8月、新館完成!

8月17日に新館(南側校舎)が完成しました。2階に職員室および事務室があります。学校へお越しの際は立ち寄りください。また、3階には学生ホールと図書室および古典資料室、7階には講堂兼柔道場が新設されました。学生ホールには飲料だけでなくカップ麺の自動販売機もあり、従来と比較して充実した内容になっています。図書室も少し大きくなり、閲覧しやすくなりました。

11月中には、旧館(北側校舎)の全面改装も終了し、全館完成となる予定です。



上 3F・学生ホール 下 3F・図書室



7F・講堂兼柔道場

解剖見学実習が行われる!

本校毎年恒例の解剖見学実習が、大阪大学歯学部で実施されています。2年次学生60名を対象に、7月5日(水)に実施されました。

本校では、専修学校研修生として教員を同学部口腔解剖学第二講座に派遣しており、研修生が、鍼灸師の立場で鍼灸師の目と手と頭で実際に解剖を行い、解剖した遺体を学生に共観することが、解剖見学実習の特徴となっています。その結果、本校では系統解剖学のみならず、鍼灸臨床に直結した局所解剖学的・臨床解剖学的知識の修得をも目的とした解剖見学実習を実施しています。

本実習では、研修生を中心に学生への指導を行っています。実習の前に吉田助教教授の実習にあたっての注意事項や献体や白菊会についての講義が始まり、実習の前半は、歯学部学生が解剖した遺体で系統解剖学的な学習を行い、後半は、研修生が解剖した遺体で、局所・臨床解剖学的な学習を行っています。



実習前の吉田助教教授の講義

また、短時間の実習でより高い学習効果を挙げるため、① 剖出された解剖構造について事前に講義し、予備知識を高める。② 特に見学したい解剖構造を学生に挙げさせ、見学実習までに研修生が可能な限り剖出するなどの工夫も行っています。

本校の方式では、経穴と解剖構造との関係、血管・神経・内臓等との関連よりみた刺鍼の安全性などの鍼灸臨床的な解剖学的知識の修得も可能となります。また、平成12年度では胸骨裂孔例が観察され、膈中穴への刺入鍼による心タンポナーゼで死亡した40歳女性の例を文献として、膈中穴への刺鍼の安全性について具体的に学習することができました。

本校での解剖見学実習が決して究極的なものではありませんが、実習後の学生の授業や臨床実習に対する意欲的な態度が見られることや、刺鍼時に刺鍼部位を3次元的にイメージすることができ、治療の幅が広がった等、色々な面でプラスになった実習であった。

(尾崎朋文)

柔道整復学科の授業風景

実技授業に取り組む学生達



足関節の包帯法を
実践する吉川先生



学生に包帯法を
指導する川畑先生

今年度から新たに開設された柔道整復学科も順調にスタートし、臨床経験豊富な講師陣による熱のこもった授業が展開されています。この熱意に答えるように前期試験の結果は非常に優秀であったと聞いています。

写真は「柔道整復実技」の授業風景です。教員と学生が森ノ宮医療学園専門学校柔道整復学科の新しい歴史を作っていくとする雰囲気を感じ取れました。

「現在は柔道整復理論・実技ともに、基礎的な段階であります。さらに高度な技術を身につけていくためには、この基礎的な技術力が非常に重要であることを、常に主眼におき授業を行っております。学生もこれを十分に理解してくれているようです。従って、目に見えて技術が向上しており、大いに柔道整復に興味を持ち始めております。

今後授業の内容は、より専門的になっていき、難しさを増しますが、その分面白くなっていきます。本物の柔道整復の魅力を経験していくのは、これからです。」

川畑先生談。

体育実習、グリーンピア三木にて



鍼灸学科の体育実習が5月27日(土)・28日(日)に兵庫県三木市のグリーンピア三木にて実施されました。1日目は、あいにくの雨模様で体育館やプールでの実習となりましたが、2日目はうたてかわつて快晴となり、参加者全員それぞれの種目で汗を流しました。

毎年恒例のエアロビクスでは、教員・学生が一緒になってリズムカルかつコミカルなダンスを披露していました。

また今回は、校舎の工事の影響で4月に実施できなかった「新入生歓迎会」が、1日目の夕食時に、2年生主催で盛大に行われました。

活躍する卒業生に聞く



松井 義治 先生

(23期夜間部) 36歳

①卒業されてから現在までの経緯をお聞かせください。
学校を卒業してから病院で勤務し、診療時間の間に往療をしていました。その間に自宅で開業しまして、現在は往療がほとんどです。

②現在の治療形態を教えてください。

患者さんは、病院勤務時代に知り合った内科医の往診患者さんで、その内科医から同意書を得た方19人に対して、月間にそれぞれ10回ずつ治療をしています。うち2人は入院されていますので、1ヶ月でみると1200～1600回治療を行っていることになります。一人に対する治療時間は15分から30分程度です。

③往療に行くことで患者さんに喜ばれている点は。

私の患者さんは、内科医が2週間に1回往診に来るんですが、その間に何が患者さんに変わったことがあれば私の方でフォローし、内科医と連絡をとるようにしています。これは、患者さんやご家族の方に喜ばれていると自負しています。

④往療での注意点は。

まず、白衣で行くことと時間を必ず守ることは最低限の条件です。それからあまり馴れ合いになりすぎないこと、これは往療の場合、家まで伺いますので、どうしても患者さんも含めてその家族の方とも距離が非常に近くなりやすいのですが、注意しなければいけない点だと思います。また高齢の方が多いので、バイタルサインのチェックは必ず行うようにしています。

⑤今後の目標をお聞かせください。

往療は今後も有望な分野だと思いますので、もっと稼げる鍼灸師になることがまず目標です。そのためにこれからも、いろいろな隙間をみつめて頑張っていきたいです。

⑥その他、何かご意見はありますか。

往療がほとんどという鍼灸師は少ないのですが、私の意見としては、往療は是非お勧めです。特に私の場合は、治療所で患者さんを待っているというのは苦手で少し不安なので、もっとも外に出て行きたいと考えています。また現在、往療を行っている方にもドクター特に内科医に上手に協力してもらって、是非患者さんの幅を広げていってほしいと思います。

それと、私は大阪府鍼灸師会の委員をしていますので是非各地域にある鍼灸師会に入ってもらいたいです。

新任の先生の紹介



よこやま ひろき
横山 浩之 先生

1.卒業学校名 2.ひとこと

1. 明治鍼灸大学
2. 古書・図書関係でお世話になります。よろしくお願ひします。
図書関連の情報(良否問わず、何でもかまいません)をお待ちしています。御寄贈も賜っております。

同窓会



23期夜間部同窓会・お別れ会

7/22(土)なんばの「良平」にて行われ、参加人数は12人+子供が2人でした。今回は、旧交を温める事に加え、我がクラスのマドンナ鹿毛さんが、郷里の福岡へ帰ってしまうのでお別れ会も兼ねました。しかし、始まってしまうと主役はどこへやらで、いつものように飲んべえの会となり、あっという間に時間が経過しました。結婚や郷里に帰ったり、仕事の都合などで、参加者の顔ぶれが減り少し寂しい気がします。1年に1回は元氣な顔が集まるようにみなさんががんばりましょう。

(竹中)

インフォメーション

総会のご案内

11月3日(金)文化の日、午前10時30分より森ノ宮医療学園専門学校校友会総会が4階401号室で行われます。議題は下記の通りです。

- ①平成11年度事業報告
 - ②平成11年度決算報告
 - ③平成12年度事業計画案
 - ④平成12年度予算案
 - ⑤会則について
 - ⑥新代議員について
- 欠席の方は、同封の委任状をお送りいただけますようお願いいたします。

竣工式のお知らせ

先の記事でもご紹介がありましたように、8月下旬に新校舎が無事に完成し、真新しいきれいな教室、実技室で、在学生達も毎日気持ちよく勉強しているようです。

現在、北側旧校舎の改築を行っています。それは、11月中に終わり、晴れて全館完成の予定です。ついでに、平成13年1月14日(日)に竣工式(式典および記念パーティー)が開催されることになり、学園から卒業生の皆様への感謝の気持ちを込めて、校友会を通じて卒業生の皆様を招待させていただきます。

つきましては、別紙「案内」をご覧の上、お申し込み下さい。(校友会幹事会)

8月17～26日にかけて中国江蘇省江陰市中医院に中医学研修に行きました。江陰市は上海から車で2時間ほど走った所にあり、人口30万人程度の小さな町です。とはいっても市街地は非常に栄えており、デパートや商店が建ち並び、人の往来も多く、その中心に江陰市中医院があります。

江陰市中医院はベッド数250床、一日の患者数が約1000人で、鍼灸科、推拿科の他にも内科、外科、皮膚科、整形外科、消化器内科、中医美容、産婦人科など、たくさんの診療科のある総合病院で、中西医結合、すなわち中医学、西洋医学の両方の特長を生かした診療が特色です。

私たちは主に、鍼灸科、推拿科をはじめとし、皮膚科、消化器内科を見学、実習させて頂きました。

私がお世話になった、鍼灸科第一室には一日30～40人程の患者さんが治療に来られ2人の先生方が診ておられました。

先ず初めに、印象的だったのが、私たち実習生に対する患者さんの理解が非常に深かったことです。たとえば「もっと近くで見なさい」と手を引っ張って下さったり、写真を撮らせて頂くようお願いすると、好意的に承諾して下さったりと、協力が積極的であり、私達が勉強しやすい環境を患者さんに作って頂けたことです。また、症状もすぐ楽になったと喜んでおられる患者さんばかりで、先生方が患者さんから厚い信頼を得ているこ



とを感じました。

疾患としては、顔面神経麻痺、中風、疲労からくる食欲不振等、筋・関節痛、不眠等のストレス症状、その他が多く、顔面神経麻痺に関してはクーラーの冷風を受けた結果、顔面神経麻痺に至ったケースが多く、筋・関節痛等の、いわゆるただの腰痛、肩こり等で来られる方は意外に少なかったです。

ちなみにこれらの疾患の背景に近年の中国経済の急成長に伴う、クーラーの急激な普及があるのではないかとおっしゃっておられました。

治療は基本的に置針30分、吸角30分で行っていましたが、その治療にいたるまでのプロセスを中心に勉強させていただきました。残念ながら知識不足で、先生のおっしゃることがよくわからないことが多く、もっと東洋医学を勉強してから行けばよかったと悔

やまれました。基本は私達が学校で学んでいることと全く同じで、四診をしっかりと行い証証論治を行うとのことでした。

治療は太くて、長い中国鍼を無造作にどんどん刺しているように最初は見えましたが、注意深く見てみると、捻鍼や雀啄など非常に細かく繊細な手技が行われており、とても魅せられました。特に得気を得ることが一番大事なことで、得気は患者が感じて得るものではなく、治療者のほうが感じるものであると教わりました。

今回、この中医学研修に参加し、なかなか言葉にはし難い貴重な経験をたくさんさせて頂きました。中国という国で実際に人・物・街に触れたとき、ここが中医学発祥の地であると言うこと、人は自然の一部であるという中医学の考え方を実感することができました。また中医学は古典や先人の努力を重んじる、伝統医学であることを感じました。

日中両国は一衣帯水の関係にあり、これからも末永い友好関係が築かれていくと思いますが、私たちもまた鍼灸を通じて、その一役を担う事ができれば、これほどうれしいことはありません。

今回、中国で大変お世話になった江陰市中医院の先生方、職員の方々、また森ノ宮医療学園専門学校の安雲校長はじめ尾崎先生、于先生他ご尽力頂いた方々にこのような大変貴重な機会を与えられたことを感謝いたします。

在校生のサークル活動紹介 No.2

空手道部



今回、ご紹介するサークルは「空手道部」です。

1. 現在的人数 7人
2. リーダー 松本 忠士
3. 活動内容 練習日 毎週火・金曜日9:00～10:30pm (新館7階講堂にて) 剛柔流空手道の稽古を通じて心身の鍛練
4. 今後の予定 11/3 全日本空手道連盟剛柔会・関西大会に大阪代表選手として昼間部一年宮脇康輔が組手軽量級に出場
1/初 初稽古 寒稽古
5. その他
 - 創部12年本校に於いて最も歴史のあるクラブです。
 - まったくの初心者でも卒業までに全日本空手道連盟剛柔会の黒帯(初段)を取得する事が可能であり又多くの先輩達が見事に初段を取得して卒業していきます。
 - 空手道部OBで医療現場で活躍されている先輩や開業されている先輩も数多く我々現役と太い絆で結ばれています。空手道の指導のみならずいろいろな形でアドバイスや支援を受けています。
 - 歴代の戦績
 - 剛柔会国際大会……準優勝4回・3位2回
 - 剛柔会全日本大会……優勝1回
 - 剛柔会全関西大会……優勝1回・3位1回
 - 剛柔会大阪大会……優勝2回・準優勝3回・3位4回

書籍紹介

『骨折治療学』

水野 耕作・糸満 盛憲 共編
2000年・南山堂 定価18,000円+税

最近の社会状況の急速な変化により、患者の要求も多岐にわたり、柔道整復師も大きな変革を迫られております。しかし、その一方で依然として柔道整復師は「骨折、脱臼治療」の専門家であり、骨折に対して直接治療を行える医療職は、医師を除いてほかには、柔道整復師のみです。

すなわち「骨折治療」が柔道整復師の唯一の専門分野であるといえます。従って柔道整復師はこの分野においては整形外科医と同等、それ以上の知識、技術を得なくてはなりません。

本書は、「骨折治療」の専門書として出版されたものであり、骨折に対する基礎的知識から臨床に至るまでを、新しい知見を加えて極めて詳細に解説しており、また理解しやすいように図、表もふんだんに活用されています。

特に骨折の徒手整復については原理や方法、有用性について再認識させられることも多く、現場でも横に置いておきたい一冊であります。従ってこれから新しく柔道整復を学ぶ者から、すでに現場で活躍されている柔道整復師まで、成書として広く活用できると思います。

(柔道整復学科 教員 川畑浩久)

掲示板

本欄は、

- ①校友会から校友会の方へのご連絡
 - ②校友会の方から校友会へのご意見・ご要望
 - ③校友会の方々同士のご連絡など、様々な目的で使用したいと思っています。よろしく願います。
- 連絡先: 森ノ宮医療学園専門学校校友会
編集者 清水尚道
TEL(06)-6981-6889
e-mail: koyukai@osaka-am.ac.jp (アドレス変更しました)

【校友会からのお願い】

住所変更をされる場合は、校友会に連絡していただければ、お願いいたします。また、会報が届かない方をご存じの場合、ご転居先が校友会でわからなくなっていることが原因と考えられますので、現在の住所を校友会まで連絡していただければ幸いです。

【校友会ホームページ】

森ノ宮医療学園ホームページ(<http://www.osaka-am.ac.jp>)に校友会のホームページがあります。アクセスして下さい。

【図書だより】

10月より、卒業生の図書室利用が始まりました。卒業生の方は事前に電話で連絡の上、ご利用ください。学生の利用は月・水・金の16:00～18:00です。貸し出しは1人3冊までとなっています。 e-mail: tosho@osaka-am.ac.jp
[退職者] 湯谷 達 先生(鍼灸室鍼灸師)
【MMCA次号発行予定】2001年1月

【物故者】

平成12年5月以降に校友会に連絡をいただいた方のみです(敬称略)。
9期昼間部 伊藤 栄三
11期夜間部 堀江 宏明
ご冥福をお祈り申し上げます。

【前号の訂正】

- 前号からリニューアルした校友会報ですが、2ヶ所間違いがありました。
 - 1. 同窓会 7期夜間部同窓会とあるのは
→ 7期昼間部同窓会の誤りでした。
 - 2. 物故者 7期夜間部 初代 富士子さんとあるのは
→ 7期昼間部 初代 富士子さんの誤りでした。
- 訂正させていただくとともに、お詫び申し上げます。

編集後記

20世紀最後の年に本校では、柔道整復学科の開校および新校舎の建築など記念すべき事柄が目白押しでした。校友会報「MMCA」も今号が、20世紀最後となります。21世紀には、柔道整復学科卒業生も増えますので、これまで以上に皆さんをつなぐことができるよう、情報を発信していきたいと思っています。